

Maria João Pires & Antonio Meneses

DUO RECITAL 2015

現代最高峰のピアニストと、ミュンヘン、チャイコフスキー世界2大国際コンクールを制覇したチェロの巨匠が夢の共演!

磨き抜かれた技巧と音色、非凡な構成力と表現力で魅了して止まないピリスの音楽と、円熟の巨匠メネセスが奏でる名器アレクサンドロ・ガリアーノの魂の音色が響き合う!



ピリスとメネセスのデュオ 毎日新聞 2013年3月25日(月)夕刊

アンサンブルの極意

マリア・ジョアン・ピリスはつい先日、ロンドン響日本公演で至高のソロを聴かせてくれたばかり。今度はブラジル生まれの名手、チェロのアントニオ・メネセスとのデュオが、満場のファンを魅了した(18日、東京・すみだトリフォニーホール)。

デュオ・リサイタルとはいえ間にソロ曲目も挟む、ピリスお気に入りの流儀で構成されたプログラムは、ベートーヴェンのチェロ・ソナタ第2番で始まる。悲哀に満ちた第1楽章の序奏部、玲瓏な音色で歩むピアノに、チェロはその影を踏むように追従して、典型的なピアノ主導型のデュオかと思わせた。だが主部に入るや、2人は互いの個性を探りつつ、気づけばいつしか生じた不思議な一体感のもと、親密に對話を交し合うのである。チェロは洪いが含蓄の深さが無類。対してピアノは、小さな体に音楽がいっぱい詰まったような、独特な充実感が健在だ。

続くソロ、シューベルトの「3つのピアノ曲」D946では、ピリスの枯淡の境地が聴けるのではという甘い予測が、見事に覆された。第1番変ホ短調主部の激しい疾走も、二つのエピソードの対比も、思いのほか鮮烈。牧歌的な第2番変ホ長調はさすがに夢見るようなひとときをもたらず、それでも随所に、情熱の泉が熱く沸き上がる。

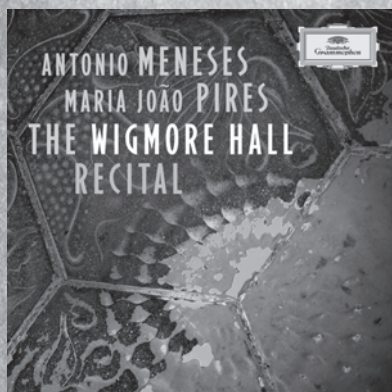
一方後半の1曲目、バッハの無伴奏チェロ組曲第1番では、メネセスが淡々とした調子で、実にいい味を出した。空間にふわりと遊ぶサラバードなどまさに絶品。心残りには室内楽には広いホールのお陰で、聞き耳を立てる必要に迫られたことくらい。

リサイタルの締めくくり、ベートーヴェンのチェロ・ソナタ第3番でも、メネセスは慌てず騒がず。それでいてチェロ・ソナタの王者たる風格をおのずと伝えるあたり、アンサンブルの極意を掴んだ円熟の技だ。このソナタの終曲がかくもさりげなく、滋味豊かに奏でられたのは、稀有のことではなからうか。

(音楽評論家・大木正純)

マリア・ジョアン・ピリス

Maria João Pires



ウィグモア・ホール・リサイタル

シューベルト:アルペジオーネ・ソナタ
ブラームス:3つの間奏曲
メンデルスゾーン:無言歌 作品109
ブラームス:チェロ・ソナタ 第1番
バッハ:パストラーレ へ長調 BWV590
アントニオ・メネセス (チェロ)
マリア・ジョアン・ピリス (ピアノ)
録音:2012年1月 ロンドン(ライブ)
SHM-CD ● UCCG-1614
定価 ¥2,667 (税抜価格)+税



シューベルト: ピアノ・ソナタ 第16番&第21番

マリア・ジョアン・ピリス (ピアノ)
録音:2011年9月 ボローニャ&ボルツァーノ
SHM-CD ● UCCG-1613
定価 ¥2,667 (税抜価格)+税

モーツァルト: ピアノ協奏曲 第27番&第20番

マリア・ジョアン・ピリス (ピアノ)
アバド指揮 モーツァルト管弦楽団
SHM-CD ● UCCG-1593
定価 ¥2,667 (税抜価格)+税



発売・販売元:ユニバーサル ミュージック

ユニバーサル ミュージックのホームページで 商品が購入できるようになりました! (一部商品を除く)

詳細は <http://www.universal-music.co.jp/classics/>

